

第1回 地域振興施設（国府道の駅）進め方検討有識者会議 会議録

日 時

平成29年10月30日（月） 午前9時30分～午前10時40分

場 所

徳島市中央公民館3階302会議室

出席者

20人（委員7人、事務局）

1 開会

2 第二副市長挨拶

3 委員紹介

委員及び事務局紹介

4 設置要綱及びスケジュールについて

【事務局】

資料1 地域振興施設（国府道の駅）の今後の進め方について

資料2 今後の進め方の検討について（実施体制、スケジュール案）

資料3 地域振興施設（国府道の駅）進め方検討有識者会議設置要綱（案）
について説明。

5 委員長・副委員長の選出

委員長に山中委員、副委員長に高畑委員を選出

6 議題

(1) 地域振興施設（国府道の駅）の現状について

【事務局】

資料4 地域振興施設（国府道の駅）の経過等について

資料5 地域振興施設（国府道の駅）整備基本計画（概要版）

資料6 地域振興施設（国府道の駅）の概要等について

について説明。

【委員長】

今の総事業費19億3千万円というのは、レストラン棟の面積を630㎡とした場合の事業費なのか。

【事務局】

レストラン棟面積を630㎡とした上で、事業費を19億3千万円とする内容になっている。

【委員長】

総事業費には産業振興ギャラリーも含まれているのか。

【事務局】

産業振興ギャラリーも含めた事業費である。

【A委員】

資料6配置図を確認したところ、徳島南環状道路沿いに整備する計画だが、徳島南環状道路の整備状況はどうなっているのか。

【事務局】

徳島南環状道路については、現在、側道が完成し一部が開通している状況である。

全線開通時期については、まだ国から示されていない。

【A委員】

徳島南環状道路の全線開通時期については見通しが立っていないという状況なのか。

【事務局】

全線開通時期については、国から示されていないという状況である。

【A委員】

道の駅なので、徳島南環状道路と一体的に機能しないと意味がないという点も事業実施要件の一つと思う。

【委員長】

徳島南環状道路の全線開通時期が見えないということですけど、どういう状況になっているのか。

【事務局】

国からは、用地の買収が未了のため、全線開通時期が示せない状況であると聞いている。

【委員長】

橋が出来ればかなり状況が変わると思う。高架が出来なくても、平面が繋がればかなり交通量が増えると思われる。当然、この先さらに高架ができるが、現在の道路の上に高架ができるのは相当先のことなので、そこまではとても考えていない。橋の整備が着工出来ればかなり状況が見えるのではないかと思う。

【B委員】

徳島南環状道路の橋の設置については、土手際にもうひとつ橋台を整備しなければならない。その土手際の橋台の建設予定地には、たくさんの地権者がいるので時間がかかっている。国からの説明があつてからも何の進展もない。

【委員長】

そういう手続き的な話は、事業認定から始めると3年から4年はかかる。

【B委員】

おそらく、2、3ヵ所の用地が取得出来ていないのではないか。その用地さえ取得出来れば一気に進むと思われる。そうすると橋を架けるのは早い。いつ開通するかは不透明であるが、必ず開通するのは間違いない。その辺も踏まえてこの会議であり方を検討していただきたい。

開通する時期が不透明だから、それまで道の駅を建設するのを見合わせという考えでは事業が後退するのではないかと思う。

【A委員】

道路の収用等については私は存じていないので、徳島南環状道路については、開通を前提にというのがいいと思う。

【委員長】

今も迂回しながら今ある橋を渡って通れている。段階的に整備するので高規格の道路として開通するのは相当先になる。1日3万台の交通量になるのは相当先になると思われる。

今は1日の交通量は1万台足らずくらい。そこからじわじわ伸びていくとは思いますが、192号線とかは混んでいるので、この地域自体の活力が増えていけば、こちら側が使われていくという状況が見えてくる。橋が一本あるとないとは大分違うというのはある。次はトンネル整備になるが、それも早くには完成しない。

基本整備計画を策定する時も交通量については想定していたが、交通量のペースがどうなるかは議論していなかった。元々1日3万台の交通量にはすぐにはならないということを前提に基本計画を策定している。

【B委員】

今回、国府道の駅整備事業として、赤字が懸念されるため、一旦事業を見直して検証することになったと思うが、道の駅のオープン当初は赤字だろう。1日1万台足らずの交通量では立ち寄る人も少ないと思う。

しかし、道の駅ができれば交通量も増えると思う。道の駅を目的にして集まって来るような人もいる。

最初は、現計画どおりに施設を全部整備して大々的に道の駅をオープンするのではなく、極端に言えば農産物の直売所だけとか最低限の施設を整備してみる。国が整備予定の情報発信施設とトイレ、農産物直売所程度を整備して、レストランとかその他の施設は、極端に言えば屋台で営業するとか、経費のかからないような、維持費もかからないような方法で様子を見ながら徳島南環状道路が全線開通した時点で、また増設というような方法で考えたらいいと思う。

【委員長】

国府道の駅は、国交省と合同で整備する認定型のタイプであり、先に国交省がトイレや最小限の駐車場を造り、それに合わせて周りの施設を市が整備していく。さらに、建物は民間のノウハウを使ってやっていく。官民連携パッケージでやりなさいと、常に言われているのが道の駅で、それをやらないと成功しない。最近では民の部分の役割が大きくなってきている。単なるトイレ休憩の施設ではなく、国府道の駅が目的地としてもらえるような、そこで名物となるような、実際に来てもらえるような場所に、地域の活力の一つの源泉にするものとして整備していく。休憩所という機能を加え、道路として頑張るけども、むしろそれ以外の施設は、地域活性化という力で地元で頑張らなければならない。民の考え方からすると、そこで赤字を出さないように頑張りましょうというのは当たり前で、そこに赤字が出ないように、市が上手く支援をどこまでやっていけるかという話になる。19億円の事業費を使っていいかどうかはその話だと思うが、道の駅の本来のコンセプトは、公共投資の部分は非常に少ない。

一番悩ましいのは用地をどれだけ確保しておくか。最初はそれを考えなければならない。将来像を見ながら拡張していくか、あるいは、最初に用地を取得して、少しずつイベントなど、小さな試みから始め、出来ることからやっていくのは、民間なら当たりの考え方で、そういうのをどうやっていくかというところだと思う。ただ、市としては色々予算も組まないといけないし、公の立場からしたら年度毎に予算を組み、年度毎に何をして、どんな手続きをとってということが出てくるので、それに民のペースを合わせていくのは非常に難しい。

道路が出来るか出来ないかに対して民はなかなか付き合えないので、その現場を見ながら今なら何が出来るかということを考えざるを得ないと思うので、そういう視点とどうやって市の動きを付け動かしていくかってことだと思ふ。この場所で整備する限りは、元々私もそういうものだろうと思ふ。なかなかドンと整備して人が来ますとはならないでしょうね。

ずっと基本整備計画策定時から委員として関わってきた。最初は全部整備していく話であったが、それがちょっと厳しいというのはそのとおりだと思ふ。逆にもう少しソフトで頑張れるところは考えながらやるのではないかとということで今回参加させていただいた。

もちろん結論として整備凍結というような、しばらく考え直す期間を置くみたいなこともあるかもしれないが、せっかくここまでプランニングされているので、もう少しこの計画案に沿って、段階的に、我々の意見をぶつけてアイデアをいただいてこなしていきたい。どういうやり方があるのか、重要でない部分や、どこまで戻れるのか、どんな手続きを進めて、何をしていかなければならないのか、時間的スケジュールを合わせないといけない。

【C委員】

ここまで計画ができて一旦立ち止まるってということはどういう意味なんだろうと、予算のことなのか、それとも将来に渡っての採算性や利用価値についてなのか、期限が早すぎるのでそれを延ばしたり短くしたりなのか、よくわからなかった。

やるという前提で話をして、もう一つは収益性のなかであまり赤字にしないという、この二本を前提として動かないことだとすれば、ビジネスの世界で言えば、それに基づいたビジネス計画の立て方があると思ふ。

そもそもやるかやらないかの議論をするのであれば、もっと深いところまで遡って検討しなければならない話で、ただ意義と意味は官の方も地元の方も前回の整備基本計画策定委員会でもある程度きちっと出ていたとしたら、立ち止まる意味としては、今この時期に整備するにふさわしいプラン、ビジョンを示せていることなのかなという考えですね。

私は車の免許を持っていないが、道の駅は通りすがりではなく目的地になっている。

神山町にドライブに行く場合、少し山へ行って道の駅で買い物して帰ってくるというのが一つの指標になる。上勝町に行くときでも、今日は半日時間があるので道の駅に行こう。そういったものが使い方として楽しいのかなと思ふ。

今は遠方になかなかイベントとかに行くということは出来ない中で、1時間以内で楽しめる場所、何か手に入るものがそこでしかないものだったり、プチ旅行になっていたり、道の駅自体が手段ではなくて行くこと自体が目的となっているという点では、国府という場所の歴史性、それから徳島市内

から近いというところに何か普段徳島市内ではちょっと贅沢で見られないものといえば、ハードの設備ではなく、田んぼの風景や、イチゴ農場など、季節毎に行けるものがあるといいなと思う。紅葉を見に行きたい、桜が咲くから行きたいなど、という形でいつも行きたくなり、変化が見られるような、そういうのであれば、最初は施設は小さくてもいいのかなと思う。いっぱい需要が出来てきたら、屋内バーベキューコーナーなどを造っていくのもいいのではないか。

いきなり19億円をかけて道の駅を整備することには抵抗感がある。

【D委員】

今、他の委員から目的地という言葉がたくさん出てきた。私もそうあるべきだと思う。

例えばレストランが充実し、人気が出ればお昼ご飯に合わせて道の駅に行くという目的地になる。しかし、レストランが食券を買って軽食程度のものしか提供できないのであれば、わざわざお昼時間に立ち寄らない。道の駅に立ち寄る目的が、美味しいものを食べに行く、食べたい物が食べられる、という目的になると、その後の観光プランであるとか、行動の仕方がはっきり変わっていく。県内の人にとってもそう。県外からバスで訪れる人やマイカーで来られる人がお昼ご飯を食べて、その後お遍路のお参りに行くのか、市内の中心部に入って眉山に行くのかというような行動に幅が広がってくる。目的地になってもらえるような食の充実を是非図っていただきたい。

ただ、そこで出てくる問題点は、食券を買って料理を提供するような飲食施設だと、コスト的に、人件費も含めて安く抑えられる一方で、充実したレストランにした場合、人の配置も含めて多くの経費が掛かってくる。そうすると赤字の問題とか色んな課題が出てくるので、痛し痒しな部分はあるが、19億3千万円を掛けて道の駅を整備するという前提で、4～5年後の施設オープンを目指すのであれば、時間は充分あると思うので、運営店舗について、県内の事業者にはコンペティションで募ってもいいですし、場合によっては、国府町の地元の方、地元のお母さんが作るレストランみたいな形態で何かオープン出来ないかなと思ったりもする。

木工会館がテナントとして入ることを反対していると聞いたが、木工会館が入らないとなった場合、第2候補として参画されるような事業者が今のところあるのかどうか。

ないのであればそこはまたこの委員会でもいいですし、皆さんで揉んで有効なスペースの使い方を検討すればいいのではないかと。

あと、電気自動車が徐々に増えてきているが、電気自動車のスタンドもまだまだ徳島県内、徳島市内では少ない。そういったものも、国交省が今回の道の駅整備に入ると聞いている。全額支援してくれるかどうかはわかりませんが、今なら申請すれば、設置費用の支援を得られる可能性もあるので、そ

ういった所も充実させることによって、団体客だけでなく、個人のお客さんにも視線を置いているという風になるかと思う。

【E委員】

小さく産んで大きく育てる案に賛成。

道の駅を造るうえで国府に限って言うと、食の施設の充実と魅せる・観る場所の整備、この2点が重要。

まず、充実したレストランが必要だということに加えて、例えば、エシカルレストランというコンセプトで、採れた野菜や食材で規格外のものを活用するレストランを運営してみてもは。もちろん提供する料理は品質が高い、全国的に珍しい取り組みになる。

次に、最近みんな簡単に写真を撮る。SNS等に掲載するかどうかは次の話だが、写真を撮ると映えるスポットを作ってみてもは。

秋の紅葉、春の桜、夏の緑や虫。季節ごとに国府道の駅ならではのスポットができれば人が集まるのでは。

まずはエシカルな視点、それから魅せる・観るという視点を持った他にはない国府道の駅を小さく産んで大きく育てるといえるのはいかがでしょうか。

【F委員】

国府町商工会では、道の駅を活性化と捉えて、色々な取り組みを事業者と実施している。現在、「パンとコーヒーの町国府」という形で事業を実施しており、新聞でも大きく取り上げていただいた。私も商工会の会長をしている関係もあり、国府町の活性化ということを目的に一生懸命頑張っている。他の委員さんが言っていたように、レストランということでは、やはり徳島県の食べ物ってなんだろうなって。隣の香川県ではうどん県香川ということで非常にたくさんお客さんが訪れている。国府道の駅では、徳島ラーメンを集めてそこで食堂、レストランを作るのはどうかと、以前、市に提案した。徳島ラーメンは土日はたくさん県外からはお客さんが訪れて並んでいる。なんでこんなに来るのかなと感じを受けているのですが、非常にお客さんが多い。道の駅が出来たら、ラーメン店を5～10軒呼んでイベントをやっている方がいいと思う。

イベントは非常に大事であり、イベントを開催すると必ず人が集まる。しかし人が集まるのはイベントの期間中だけ。ラーメン1日何杯売れたらこうなるかなと試算してこのぐらい利益が残るかな、ということは経営されてる委員さんはわかると思う。市に負担してもらうのでは意味がない。出来るだけ市の負担がないような、利益の出る事業をやっているかないと。

鳴門市は吉本クリエイティブ・エージェンシーさんとマラソンしたり、鳴門市文化会館を非常に上手に有効に使っている。そういう意味では徳島は観光が少ないところなので、何か一つ目玉が出来たらいいかなと思う。皆さん

の意見を聞かせていただいて、人が集まるようなことをやっていきたい。

【委員長】

それでは、1回目の現状の確認ということで、かなり突っ込んだ意見もできましたけど、もう少し時間を掛けて現実化に向けて詰めていきたいと思っておりますので、今日のご意見を踏まえて、また意見をいただければと思う。

【C委員】

今、ラーメンの話でひらめいたのですが、県外のお客さんも大事だが、いつでも行ける場所にラーメン横丁とか結構いろんな地区でラーメンは成功している。

若い人は週に1回ラーメンを食べに寄る。車が停められて早く食べられてしかもラーメンは原価も掛からなくて安い。現にお店を持っている人達を入れると、人を雇うコストもいらない。お店側も自分のところで切磋琢磨して売上げが上がらないところには辞めていただいて、勝負したいところに出ただくのがすごくいいなど。

今、食にイベント性をつけるというのがブームになっており、全部こちら側が作ってフルコースなり定食を提供するというのでは、コストが合わない。

お客様が自分で作って食べられる参加型の食事、例えば、庭でもぎたてイチゴを摘んできてミキサーでジュースにしたり、イモを取ってきたらそのイモを茹でて自分で料理して食べるとか、バーベキューを庭でするとか、そういうものだったら在庫コストがいらない。

レストランでは特に団体さんを相手にする場合、季節の変動が大きいのと、天気の影響と。在庫リスクがあって徳島ではビジネスにならないのが正直なところ。普通のお客さんも来る、団体にとっても並んで買うことも食べるのもパフォーマンスになるようなラーメン屋がとってもいい。

【委員長】

それでは、今回の委員の皆さんの意見を受けたうえで、次回の開催日程等を調整する。

【事務局】

第1回地域振興施設（国府道の駅）進め方検討有識者会議を終了する。

以 上